

送付先：〒五九一 堺市新金岡町三一一―二一三〇八

長門谷洋治

投稿資格：原則として本会会員であること。

「医の博物館」の開館紹介

去る九月四日、日本歯科大学新潟歯学部では「医の博物館」の開館式を行った。

昭和五十二（一九七七）年、医学・歯科医学史研究を目的として史料室として発足したものを基礎としている。史料室として出発したときは、附属病院のカルテ収納庫の一隅を借用したものであった。それが卒業生・篤志ある方々の寄贈品がしだいに増え、手狭になってきた。そこへ八号館の建設計画が立案されたのであった。それで医学・歯科医学史研究室の開設を希望したところ、いろいろな案が提出され、研究室のみならず資料を陳列展示して、外部にも開放したらどうかというところにとまってきた。大学外部にも開放する施設であれば、医学・歯科医学史研究室の名称ではなく、もっと親しみやすいものにはしようではないかとの意見があり、中原学部長の提案により「医の博物館」の名称にすることとなり、博物館施設として新潟県に申請し、平成元年七月二十一日付をもって指定を受けることができ、開館することになったのである。

博物館は、古医書、義歯に関する史的資料、医・歯科医療用器械器具類、歯科風俗史関係資料、医・歯科医療に関する浮世絵、

その他の資料が展示されている。一隅には二十世紀初頭の歯科治療室を再現し、治療椅子、足踏エンジン、治療用器械をそろえて、当時の診療状況をかいまみることが出来る。また大学創立から現在までの資料をそろえて、学生には大学の歴史を理解させるようにしている。博物館は館長室、館務室、史料庫、会議セミナー室となっており、館務室と史料庫は研究室併用となっている。

現在の構成人員は、館長（中原泉学部長、日本医史学会評議員）、講師・本間邦則（日本医史学会評議員）、蓮見寿伯（日本歯科医史学会評議員）と学芸員二名、事務員一名となっている。顧問には谷津三雄（日本医史学会理事、日本歯科医史学会理事長）、蒲原宏（日本医史学会常任理事）の両先生に就任していただいた。日本歯科大学は海外の大学とも姉妹校の提携をしているので、アメリカのハートフォード医学歯科医学歴史博物館（館長・レオナード・メンツァー）、フランスのピエール・フォシャル博物館（館長・クロード・ルッソー）と姉妹館として提携し、館長には顧問に就任していただいた。

今後「医の博物館」を通して医学・歯科医学史の研究に精進したいと思うので、御叱正と御鞭達をお願いするとともに、博物館の開館を紹介した次第である。

医の博物館

新潟市浜浦町一一八

日本歯科大学新潟歯学部内

電話 〇二五―二六七―一五〇〇

（本間 邦則）